



襖下張り文書の解読と市史編さんボランティア

進藤, 輝司

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 15:27-29

(Issue Date)

2017-01-29

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009731>



襖（ふすま）下張り文書の解読と市史編さんボランティア

三木古文書研究会会員

進藤輝司

皆さん、こんにちは。私は三木市からまいりました進藤輝司と申します。82歳です。

本日は、平成16年(2004)5月に発足して13年^に目なる「三木古文書研究会」の活動報告をさせていただきます。その前に、この三木古文書研究会の前身ともいべき「古文書を読む会」のことなどその経緯・経過についてお話したいと思います。

昭和53年(1978)3月、郷土の歴史に関心のある方々49名が集まって設立総会を開き、「三木郷土史の会」という団体が誕生しました。私も役員の一員として参画し、以来、この三木郷土史の会が平成16年(2004)3月に解散するまでの26年間、役員を務めました。会員数は初年度の昭和53年度末では百数十名でしたが、数年後には約230名になりました。

この三木郷土史の会の目的は、三木市、吉川町及び神戸市北区淡河町（旧美嚮郡）とその周辺の市町等の歴史を調査研究することを目的に、その事業として①郷土歴史の調査研究②実地見学③会誌、研究記録の発刊④他の同好団体との情報交換⑤会員相互の親睦、という5つの事業を中心に展開してきました。

その事業の中で、昭和58年(1983)9月から三木郷土史の会主催、三木市立図書館後援で「古文書を読む会」が設置され、三木郷土史の会会員及び広く一般に呼びかけて当初34名の会員でスタートしました。そして月2回、1回につき2時間、主として江戸時代の公文書の書体であった「御家流」で書かれた古文書の解読を20年間続けてまいりました。私も後半の8年間、講師役を務めました。

その間の平成4年(1992)6月、三木市から「市が所蔵している1600点余りの江戸時代の膨大な古文書を郷土史家ら数名が昭和49年(1974)から17年かけて約80%解読されているので、その残りの古文書の解読と編集業務、本にして出版する一切の事務を三木郷土史の会に委託したい」との申し出がありました。三木郷土史の会では早速役員会を開催し、この申し出を受託することに決定し、三木郷土史の会と古文書を読む会のメンバー十数名で実行委員会を立ち上げ、この大事業に取りかかりました。私は、その解読、編集業務などの段取りをする一人として10年間の歳月をかけて『三木市有宝蔵文書』（全8巻）という形で平成14年(2002)に完成させました。この大事業に古文書を読む会のメンバーの果たした役割は非常に大きかったと思います。

そこで、三木郷土史の会が解散した平成16年3月、私は「古文書を読む会だけは何とか残したい、継続したい」という強い思いから、広く一般に会員募集をし、三木郷土史の会が解散した2か月後の平成16年5月に「三木古文書研究会」という名称に変えて継続し、今日に至っているの^のであります。その目的は、図書館が所蔵する古文書や市内外の古文書の解説を通じて市民文化の向上に貢献すること、を掲げ、その事業の一つに三木市または公共的な事業に参加する項目を入れ、月2回第2、第4土曜日の午後^の2時間、三木市立中央図書館で古文書の解説に励んでおります。会員は二十数名ですが、三木市民だけでなく、近隣の神戸市や高砂市、小野市などからも入会されています。

さて、前置きが長くなりましたが、三木古文書研究会が現在、公共的な事業にボランティアとして参加、取り組んでいる活動状況を報告させていただきます。

まず第1点目は、三木市本町2丁目にある「旧玉置家住宅」の襖下張り文書の解説と目録づくりに関わっていることです。これは平成22年(2010)7月から神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターのご指導のもと私を含めて数名の会員が月2回、第1、第3金曜日の午後1時から4時までの3時間、襖下張り文書を中心にその解説と目録づくりに取り組んでいます。はじめの4～5年は神戸大学の板垣貴志先生(現鳥根大学法文学部准教授)からご指導を受けていたのですが、平成27年からは私たち古文書研究会のメンバーのみでコツコツと解説や目録づくりボランティアを続けています。

なお、この「旧玉置家住宅」というのは、文政9年(1826)上州館林藩(群馬県)が財政建て直しを図るため、飛地であった播州三木に切手会所(今の銀行)として建築されたもので、平成~~14~~年(2002)国登録有形文化財の指定を受け、三木市観光協会が利活用しているものです。

第2点目は、この「旧玉置家住宅」の奥座敷を利用して平成27年9月から毎月1回第3水曜日の午前10時から正午までの2時間、初心者を対象に「三木古文書塾」を三木市観光協会主催で開設され、その講師として私を含めて5人の会員が参加しています。

第3点目は、神戸市をはじめ三木市など周辺都市の会員で構成されている「兵庫歴史研究会」という団体が、その事業の一つとして「古文書教室」を毎月第1日曜日午前10時から正午まで神戸市中央区の兵庫県民会館で開催されているのですが、数年前から教材の選定を含めて講師を2名派遣しています。私も最初の約2年間、講師を務めました。

第4点目は、昨年平成28年4月、三木市教育委員会が古文書の解読や目録の作成などに協力できる「三木市史編さんボランティア」を募集された際、私たち会員十数名が応募しました。それも三木市民の会員だけでなく、神戸市や高砂市、小野市の会員も自主的に参加の意思を表明して下さいました。そして昨年6月から江戸時代の古文書や明治・大正・昭和の近現代の^(文書)解読や目録づくりに取り組んでいます。

日程は、昨年6月から10月までは毎月第2、第4水曜、木曜日の2回、11月からは第1、第3水曜、木曜日も加わり、毎週1回、水曜班、木曜班に分かれて参画するなど、古文書を通じて人と人との交流や地域づくり、まちづくりに貢献すべく活動を続けている状況であります。

ご清聴ありがとうございました。終わります。